北海道支局 SAPPORO
〒060-0807
札幌市北区北七条西4丁目8−3
北口ヨシヤビル9階
TEL（011）756−1321 FAX（011）756−1322

北日本ネットワーク
北海道・東北
JAPAN METAL BULLETIN Local Network

東北支局 SENDAI
〒980-0804
仙台市青葉区大町1丁目1番8号
第3青葉ビル5階
TEL（022）223−9032 FAX（022）211−6860

トリパス
アウトドア製品参入
新ブランド立ち上げ

精密板金加工業のトリパス（本社＝札幌市、杉本光崇社長）はこのほど、新事業「TRIPATH PRODUCTS（トリパスプロダクツ）」を開設し、アウトドアブランドを立ち上げた。同社が得意とする高精度な金属加工技術を生かした製品を開発し、自らが販売も手掛け、まずは第一弾としてアウトドアのカテゴリーに進出する。

ブランドイメージ

まず焚火台・BBQ鉄板

杉本光崇社長は「社員の活躍の場を提供するために1年ほど前から、さまざまなジャンルに富んだ製品の開発を進めてきた。そして、北海道のイメージとも合うアウトドアにたどりついた」と話す。

今回発表された商品は、焚火台（サイズ全3種）とBBQ鉄板（同2種）の大きく分けて2製品。発売直後にあるサイズは即日完売を見せるなど、北海道発のアウトドアブランド確立に向け今後も「市場開拓なども含め力を入れていきたい」（同）との意向だ。

新事業「TRIPATH PRODUCTS（トリパス プロダクツ）」は、金属・メタル加工のプロという立場から、新しさと楽しさと職人スピリットを結集させ、唯一無二の新しいアイテムをプロデュースする事業。第一弾のテーマは「アウトドア」。

焚火台「GURUGURU FIRE」は、空洞を利用し火が燃えやすい組立式構造。アンティーク調で、森や水辺にフィットする野性的シルエット。時折、北海道の自然をイメージさせるようなデザインで、隙間から見える炎の美しさを生かした造り。プラモデルを作成するイメージで「組み立てるのも楽しみの一つに」という技術者の思いも込められ、組み立てやすく壊れにくい製品となっている。

BBQ鉄板「ATSUATSU IRON」は、4・5ミリ厚で、熱を加えても歪みが少なく、手入れ次第で半永久的に使える代物。制作にあたっては数名の料理人監修のもと、何度も意見交換が行われ、板厚も含め全てが緻密に計算尽くされた構造。安定した表面温度を保ち、想定される焼き物をおいしく焼き、同時に蒸す効果もある。

焚火台㊤とBBQ鉄板

アウトドアブランド立ち上げに伴い営業部の片山博人部長は「どちらもこだわってこだわり抜いた製品。安全性も抜群。発売して間もないが市場の反応もいい。より多くのユーザー視点に立ち、時代を超越するような製品を手掛けていきたい」と情熱を燃やす。

新事業「TRIPATH PRODUCTS（トリパス プロダクツ）単独のウェブサイトは以下の通り（https://products.tripath.co.jp/）。

東北鉄連
青年部会に40人出席
代表幹事に谷津氏選出

あいさつする平塚幹事

東北鉄鋼販売業連合会（東北鉄連）の青年部会の第一回例会が10日、仙台市のホテル法華クラブ仙台で開催され、24社40人が出席した。幹事改選では、槌田勝矢代表幹事（住商メタルワン鋼管）に代わって谷津廣樹氏（渋井鋼材店）が新代表幹事に就いた。

令和に改元して初の例会開催にあたり、あいさつに立った平塚太一幹事（新栄商事）は東北鉄連青年部会の生い立ちを振り返り「昭和59年に発足して以来、5人の方々が代表幹事を務められてきた。この歴史ある青年部会だが、近年の事業活動にはややマンネリ化の傾向がある。新たなことを検討し、活動していかなければならない」と新時代に相応しく、活発な事業活動の必要性を強調した。

その上で「みなさんから多くのご提案をお願いしたい。令和の時代に新たな青年部会にしていきたい」と述べ、出席者の積極的な活動への参加を求めた。

続いて乾杯のあいさつに立った親会の鎌田晃彦・東北鉄連会長は「平成は自然災害が多かった。令和はどういう時代となるか」と切り出し、AI（人工知能）の急速な拡大と時代の進歩の速さを挙げた。鎌田氏は「自覚を持って仕事などに取り組まないとAIに取って代わられる可能性もある」とし、出席した会員会社の若手を激励した上で「鉄の業界でも倉庫などではAI活用で効率化が考えられるが、一方でAIをうまく活用しながら人間の知恵を入れていければ共存できる。進歩のスピードは昭和の時代と比較できないほど速い。そんな時代に、皆さん方は真ん中で仕事をしていかなければならない。新しい知識を出し合い、東北の鉄の需要環境が良くなっていけばわれわれにとってもうれしいこと。若手の皆さんで東北の鉄鋼業界を盛り上げていただきたい」と述べ、高らかに杯を上げた。

中締めでは谷津・新代表幹事が「皆さんとコミュニケーションをしっかり取って青年部会を有意義な会にしていきたい」と述べ一本締めを行い散会した。

北海道板金工組が総代会
新理事長に川島氏選出

あいさつする川島理事長

北海道板金工業組合は8日、札幌市のニューオータニイン札幌で2019年度（第19期）通常総代会を開催。任期満了に伴う役員改選では川島隆司氏を新理事長に選出した。

総会の冒頭あいさつに立った洞内俊前理事長は「本日の総代会では、資料を見ていただく通り、役員改選も含め重要案件が目白押し。皆さまにお願いしたいことは、賦課金の値上げ。道板工発足当時は748人からスタートし、現在19期は435人で約310人の減少となっている。3年後、5年後の道板工の運営を見据えご理解していただきたい」とあいさつした。

総代会では、本年度の事業計画や予算などを審議。全会一致で承認がされた。

その後、懇親会が行われ新しく就任した川島隆司新理事長は「本日の総代会に置いて、任期満了に伴う役員改選があり、北海道板金協同組合の理事長を仰せつかることになった。本日をもって退任された洞内前理事長は10年間という長きに渡り、業界と組合の発展にご尽力されたこと感謝したい。私は第3代の理事長を務めることになるが、時代の変化に応じた運営を行い、組合員の皆さまと一緒に道板工の発展に努めていきたい。当組合は、今後5年の間にいくつかの大きな行事を控えている。来年には青年部と共に設立20周年を迎え、オリンピック後には、建築板金業次世代研究会が札幌で開催される。令和5年には、第75回全国建築板金業者大会が北海道で開催される。皆さま方のご指導ご支援ご協力を引き続きお願いしたい」とあいさつした。

カナモト
佐久営業所を開設
成瀬ダム営業所も

鎌田・東北鉄連会長

カナモトは8日に佐久営業所（長野県佐久市）を、9日に成瀬ダム営業所（秋田県雄勝郡）を相次ぎオープンした。最新の建設機械・各種車両から仮設ハウス、作業用工具まで充実のレンタル用品ラインアップと万全のサポートサービスで地域の顧客ニーズに応える。

各営業所の詳細は次の通り。

【佐久営業所】
▽住所＝長野県佐久市長土呂161−2
▽電話＝0267−78−5733
▽FAX＝0267−68−3306

【成瀬ダム営業所】
▽住所＝秋田県雄勝郡東成瀬村椿川字立石62
▽電話＝0182−23−5752
▽FAX＝0182−23−5860

18年度建築着工床面積
北海道2年ぶり減

国土交通省がまとめた建築着工統計によると、2018年度の北海道の建築着工床面積は前年度比5・3％減の519万2636平方㍍となり、2年ぶりに前年割れとなったものの500万平方㍍台をキープした。

道内の建築着工は直近ピークだった13年度（569万平方㍍）を境に、14、15年度は500万平方㍍台を割り込んだが、16年度以降は増加基調をたどる。構造別で見ると、職人不足などを背景に鉄骨造の伸びが目立っていたが、ここに来て上限を迎えたとみられる。

ただ、19年度以降も都心部の再開発プロジェクトやインバウンド効果を受けた宿泊施設など、全国的にも物件数は豊富に控える。施工能力の限界もあり、これ以上の新規上積みは難しいとされるが、今後も需要は安定して推移する見通し。

過去5年の道内建築着工床面積推移
（単位＝平方㍍、％）

	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	17年度比
木造	2,265,717	2,354,102	2,489,074	2,493,817	2,437,090	⊖2.3
鉄骨鉄筋コンクリート造	94,237	97,731	18,767	89,728	78,881	⊖12.1
鉄筋コンクリート造	1,288,129	1,336,616	1,319,276	1,314,289	1,254,180	⊖4.6
鉄骨造	1,342,774	1,210,755	1,446,357	1,562,887	1,399,357	⊖10.5
コンクリートブロック造	1,562	901	1,057	1,407	2,519	79.0
その他	10,190	8,671	12,164	18,253	20,609	12.9
合計	5,002,609	5,008,776	5,286,695	5,480,381	5,192,636	⊖5.3

東北鉄連
DI値計9に低下
4月の業況アンケート

東北鉄鋼販売業連合会（東北鉄連）がまとめた4月の業況アンケートによると、品種別コラム、厚板、軽量形鋼などの需給がひっ迫する一方、H形鋼、薄板類、平角鋼などは需給が緩和され、タイト感は薄らいでいる。

4月の販売量は、かなり増加、やや増加が全体の16％に留まる一方で、ほぼ横ばいが37％、やや減少39％、かなり減少が8％と前月から悪化した。収益では黒字45％、若干黒字27％、収支トントン23％、若干赤字5％、赤字0％とDI値は13と改善した。

向こう3カ月の需要動向予測（公共建設・民間建設）では、ほぼ横ばいが34％となったが、微減37％、減少10％とマイナス回答が。合計DI値はマイナス31と29㌽悪化した。店売り定尺販売を中心に荷動きが鈍い。

DI値合計がプラス9と前月比2㌽マイナスとなった。前月比ではDI値合計がプラス9と前月比2㌽マイナスとなった。

東北地区の鋼材別需給推移
（DI値、直近3カ月）

	2月	3月	4月
鉄筋用丸鋼	9	7	15
構造用丸鋼	11	7	0
平・角鋼	0	0	0
H形鋼	40	7	8
コラム	112	91	50
小形山形鋼	0	15	9
中形山形鋼	⊖11	0	0
溝形鋼	⊖11	0	0
軽量形鋼　（C形）	12	9	20
軽量形鋼　（広幅）	0	16	33
冷延薄板	0	0	0
熱延薄板	0	0	0
表面処理鋼板	16	12	16
酸洗鋼板	0	0	0
中板	12	0	0
厚板	100	30	28
極厚板	0	25	0
縞板	0	0	0
中径角	37	8	10
黒ガス管	0	0	0
構造用鋼管	0	0	0
計	16	11	9

出所：東北鉄鋼販売業連合会

北海道地区の2019年1月普通鋼鋼材受注量
（単位：トン、％）

	受注量	前月比	前年同月比
鋼矢板	853	4.4	291.3
形鋼（含軌条）	5,082	25.8	⊖4.1
H形鋼	8,347	⊖32.5	⊖37.9
軽量形鋼、リム・サッシバ	396	⊖40.2	⊖4.1
棒鋼・平鋼	15,445	22.0	⊖15.3
線材	648	⊖30.5	⊖57.5
厚中板	16,659	24.6	19.4
熱延コイル	8,589	32.6	21.5
熱延薄板	346	⊖1.7	⊖38.2
冷延薄板類（含電気鋼板）	2,113	⊖13.9	50.3
亜鉛めっき鋼板	3,712	⊖13.6	⊖21.2
その他表面処理鋼板（含ブリキ・ティンフリー）	2,435	⊖16.3	1.9
鋼管	4,182	⊖19.1	⊖14.5
合計	68,807	3.5	⊖7.1

出所：日本鉄鋼連盟

普通鋼鋼材受注
北海道 7.1％減
鉄連1月

日本鉄鋼連盟がまとめた2019年1月の北海道地区の普通鋼鋼材受注量は、前年同月比7・1％減の6万8807㌧となり、対前月では3・5％増だった。詳細は表の通り。

東北地区景気
緩やかな回復
日銀仙台4月

日本銀行仙台支店はこのほど、4月の東北地区における経済の動きを公表した。全体景気は「一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかな回復を続けている」とし「最終需要の動向をみると、個人消費は、雇用・所得環境の改善を背景に、底堅く推移している。また、設備投資は、横ばい圏内の動きとなっている。一方、公共投資や住宅投資は、高水準ながらも減少。生産は、横ばい圏内の動きとなっている。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回って推移している」と分析した。詳細は表の通り。

日銀仙台支店　経済の動き（4月）

公共投資	震災復旧・復興関連工事を主体に高水準ながらも減少
設備投資	横ばい圏内の動き
個人消費	底堅く推移
住宅投資	高水準ながらも震災復興需要がピークアウトしているため減少
鉱工業生産	横ばい。輸送機械は増加。生産用機械等は下げ止まり。電子部品・デバイスは減少
雇用・所得環境	労働需給は引き締まっており、雇用者所得は緩やかな増加基調
物価	消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回って推移
企業倒産	落ち着いた動き
金融・預金	個人・法人が前年プラスも公金が前年マイナス、全体では前年を下回る
同・貸出	個人・法人増加。全体でも前年を上回る。金利は低下

3月の地域別鉄骨概況

支部名	①手持ち工事量（カ月） H	M	R・未	②稼働率（％）	③見積物件数 多い	同じ	少ない	④受注価格（千円）建方込・別 S造（込）	コラム（込）	SRC（別）
道央	5〜9	2〜7	1〜5	90〜100	3	23	6	230〜300	220〜300	300〜350
函館	9	3〜4	2〜3	100	0	5	3	260〜300	260〜300	
室苫小樽	2〜4以上	1〜4以上	1〜2	100〜110	6	5	0	250〜350	230〜340	
旭川	8〜9	6〜8		120	0	0	7	260〜280	270〜290	
北見		2〜4以上		50〜110	0	3	0	250〜340	250〜340	
帯広	3〜5	2〜5以上	2〜3	75〜120	1	6	1	230〜320	230〜320	
釧路	7	3〜5	12	90〜120	0	5	0	250〜330	250〜360	

北海道機械工業会鉄骨部会、道内7支部まとめ

1−3月
共同積算量
平年比13％減
道機工鉄骨部会

北海道機械工業会鉄骨部会がまとめた2019年3月の状況報告によると、道央支部までの1−3月の共同積算量は平年比13％減、前年比9％減の3万3421㌧となった。支部別概況は以下の通り。

［道央］Hグレードは年内山積みが高く、M、R、J、未グレードとも今後も良好。各社とも多忙のため山積み調整に苦慮しており、高力ボルトの納期長期化で受注に影響が出ている。また、鋼材の納期や図面決定の遅れ、働き方改革への対応で苦慮している。

［函館］工場稼働率は高めで推移しており、手持ち量は各社バラつきがあるものの平均2−3カ月は確保している。見積もり件数は昨年ベースで比較すると少なめ。副資材（HTB）納期の長期化が改善されず、現場工程に影響が出ている。受注価格については前月と大きく変わりなし。

［室苫小樽］見積もりの引き合いは多いが、外注先を見つけることが困難。HTBの納期もいまだ改善されておらず、受注できない可能性も出てきている。

［旭川］道北地区は見積もり件数が少ない。

［北見］各社ともに通常の稼働状態。鋼材・ボルトなどの早めの手配を再確認した。

［帯広］資材、運搬、鳶工などの工程管理に各社苦慮している。

［釧路］農業物件が出始めてきており、他の物件も昨年より出足が早く稼働率が高まっている。

業界短信

岩手県鉄構協組 22日に通常総会

岩手県鉄構工業協同組合（理事長＝佐々木史昭・中央コーポレーション社長）は5月22日午後3時半から、アートホテル盛岡で通常総会を開催する。

31日に通常総会
福島県鉄構工組

福島県鉄構工業組合（理事長＝渡辺勝・ウインズ社長）は5月31日午後3時半からウェディングエルティで通常総会を開催する。

新代表幹事登場
東北鉄連・青年部会
谷津 廣樹氏
和やかな関係つくる

「伝統ある東北鉄連青年部会の幹事にさせていただき約5年になるが、会員各社や諸先輩方のお力添えがあってこの場に立っている」と周囲への配慮と感謝を口にする。

「青年部会は業務上のお付き合い、ご商売のある企業もそうでない企業も、それぞれの対会社ではなく一担当者・一個人レベルで話をして商売の話も個人的な話も、あるいは会社の愚痴もいえるような和やかな関係づくりができる会を目指したい」と抱負。

昭和59年に発足した青年部会は今年5月で35周年。現在25社が加盟する。歴代の代表幹事は東北鉄連の会長を長らく務めた齋藤芳郎氏（新栄商事社長、川勝修二氏（遠藤鋼機常務）ら5氏が伝統を紡いできた。谷津氏は「若手らしく積極的な会を目指し、コミュニケーションを密にしていきたい」とも語り、令和の新時代にはつらつとした〝青年部会像〟を描く。

前代表幹事の槌田勝矢氏（住商メタルワン鋼管東北鋼管営業チームチームリーダー）からは「二十数年間、青年部会に関わらせていただいた。幹事として今後も協力させていただくが、30代のより若い世代に引っ張ってもらい活発な活動を期待したい」とエールを送る。

15歳若返った代表幹事。親会である東北鉄連とともに、東北地区の鉄鋼業界のより一層の活性化に期待したい。

（菅原 誠）

▽谷津廣樹（やつ・ひろき）氏＝自動車部品メーカーなどを経て12年10月、渋井鋼材店に入社。東北支店営業部二課で活躍中。休日は妻、小学生（4年、1年）の2人、愛犬（ラブラドールレトリーバー）を連れドライブなどに出かける。趣味は始めて2年になるゴルフ。本人いわく「上達速上」で社内の仲間とラウンドするのが楽しみ。87年2月23日生まれ、32歳、宮城県出身。

日刊産業新聞 19.5.15

購読の申し込み
■日刊産業新聞 販売部
〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-2-1 ☎0120-300391
■申し込みフォーム http://www.japanmetal.com/koudoku.html